



第19回「人に優しい地域の宿づくり賞」視察報告

全旅連会長賞：鹿児島県ホテル旅館生活衛生同業組合青年部 事業委員会 かごしま魚市場ツアー実行委員会

視察対象事業：鹿児島らしさ生かした、地域のホテルで協働した
「かごしま魚市場ツアー」事業

九州新幹線(鹿児島ルート)は2004年に新八代～鹿児島中央間が部分開通、2011年に全線開業となった。大河ドラマ『篤姫』(2008年)効果が残る中、2011年度の鹿児島県の宿泊客は新幹線開通効果と東日本大震災の国内観光の受皿効果で、前年比70%に近い伸びを記録した。一方、2004年以降に鹿児島で開業した大型ホテル(大手ホテルグループ)も10軒に及び、老舗高級ホテルも低価格で対応するなど競争が激化し混沌とした市場環境が続いている。

そのような中で「かごしま魚市場ツアー実行委員会」は本格稼働(2011年)6年目を迎えた。同実行委員会は鹿児島県ホテル旅館生活衛生同業者組合の青年部事業委員会活動の一環で、テストマーケティング(2010年)を経て発足したもので、7軒の宿が中心となり近隣の宿や県の観光連盟、市のコンベンション協会からの協力を得ながら展開している。

同ツアーは早朝魚市場に入り約1時間、競りや作業を間近で見学できるもので、特産のさつま揚げなどの試食やマグロの解体作業も見学できる。魚市場は忙しく荒々しい仕事場のため、通常は関係者以外の入場は不可能であるが、JF鹿児島島の役員が毎回ツアーを先導し説明戴くなど、市場関係団体(JF鹿児島、鹿児島魚市場)からの協力と支援をうけ実現に至った。

毎週土曜日に開催(冬季を除く)され、ツアー参加者の約70%が外国人観光客。それも近隣国からの団体客ではなく、世界各地(16カ国)から訪れる個人旅行者が中心。彼らはロンリープラネットやSNSを活用し自らが情報を収集し、名所旧跡だけを観るのではなく、むしろ未知に対する強い好奇心を持って訪れるこだわりの旅行者ともいえる。視察当日もイスラエルより3年間の兵役を終えた

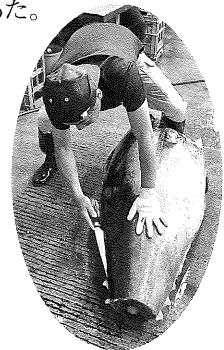
若者が休暇を利用して、約1ヶ月間の日本旅行の一コマで同ツアーに参加していた。英文併記のパンフレットやツアーに同行する実行委員、JF鹿児島島の役員も英語対応をされる点が外国人に評価され、実行委員の宿を中心に英語研修や語学力を重視した採用にも波及している。

組合活動は地域により温度差があるものの、あるべき論が先行し排他的、閉鎖的になる傾向があるが、鹿児島もその例外ではなかった。実はかごしま魚市場ツアーの実行委員長は他県出身者で、九州ともかかわりが無かったが、世界中を放浪していた経験を持ち鹿児島に魅せられ同地に住まい起業された。鹿児島には海外で見られるようなさまざまな旅行者のニーズに対応できる多様性が欠如しているとの判断から、外国人が安心して低廉に長期滞在できる宿づくりを目指した。当初、異端児扱いされていたが、青年部のメンバーが接触を試み、次第に相互に理解を深めることができ、結果的に組合にも加入され、組合組織内に化学反応をもたらす一因ともなった。

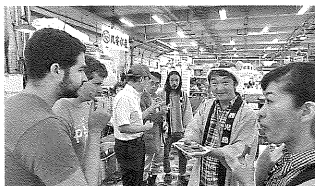
市場の拡大は市場の細分化を後押しし、大資本が群雄割拠していても中小零細事業者の繁栄を可能とする。若いエネルギーを結集し、知恵を使い汗を流し、自分たちならではのわくわくするような楽しい企画を創り出す絶好の機会でもある。「かごしま魚市場ツアー」の商品化はその良い事例ではあるが、その背景にあるさまざまな教訓と体験を活かし、さらなる挑戦を期待したい。「生き残る者は強者でも賢者でもなく、変化に柔軟に対応できる者である」を強く感じさせられた視察であった。



かごしま魚市場ツアー実行委員会の皆さん



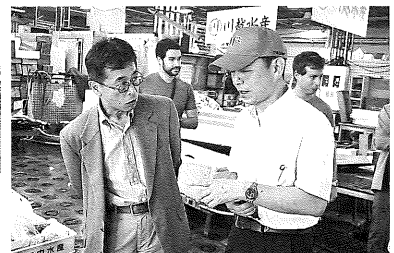
マグロの解体を実演



さつま揚げが振る舞われ、イスラエルからの参加者もご満悦



セリ場内の様子



鹿児島魚連の役員から説明を受ける平塚委員

視察日：平成28年5月24日(火)

視察者：選考委員 平塚良成(特定非営利活動法人医療事業再生機構理事長)